

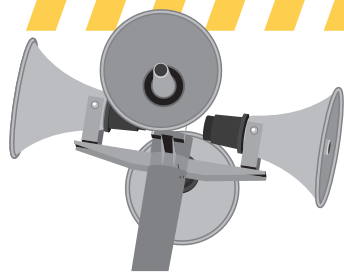


特集

乗り越えよう“チーム多久市”心をひとつに！

～多久市全域を襲った災害の記録～

8月27日から28日にかけて、多久市内は集中的豪雨に見舞われ、各地で土砂崩れや浸水などの大きな被害が発生しました。日本全国からのご支援もあり、着実に復興に向かっていく現在。今回の災害から、今後の防災につなげていきましょう。



主な被災状況 (10月31日現在)

◎人的被害	なし
◎住宅	大規模半壊 1棟
	半壊 29棟
	一部損壊 1棟
	床上浸水 40棟
	床下浸水 127棟
◎市道	196か所
◎河川	144か所
◎林道	19路線108か所
◎農地	600か所 (被害報告書調査中)

市内各地に甚大な被害
人的被害はなかったものの、住宅や道路、河川などが多数被災しました。牛津川は氾濫危険水位を超え、過去最高水位の7.02mを記録。遂には越流し、周辺の南多久町や東多久町に冠水・浸水被害をもたらしました。
また、道路や法面の崩落、河川の閉塞、護岸の崩壊・崩落などの被害も発生。民地裏山では土砂災害、農地では地すべりなども発生しました。

相次いだ警報
8月27日は朝から雨模様で、6時24分には大雨警報が発表されました。危険度が高まったのは17時を過ぎた頃で、土砂災害警戒情報(レベル4相当)が発表されると、洪水警報、牛津川氾濫危険情報(レベル5相当)が発表され、市内全域に避難勧告を発令しました。
翌28日の明け方は雨足が強く、1時間あたりの雨量が4時には約110mm、4時20分には約120mmの記録的短時間大雨情報が発表されました。状況に応じた避難行動が必要になったことから、「命を守る行動を」との緊急放送も。さらに、5時50分には大雨特別警報(レベル5相当、その約2時間後の8時には牛津川氾濫情報(レベル5相当)が発表されました。全ての警報が解除されたのは30日の16時7分。雨が止んだ後も浸水や土砂崩れなどで多くの傷跡が残りました。

被害状況